

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分がグループホームに入居するとしたらどんなグループホームに入居したいか」とテーマを決めBS法を用いて全職員で独自の理念を作成している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を達成する為、それに向けての目標を作成し、職員全員で日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・理念に向け取り組んでいる姿勢を理解していただく為に、家族、地域にグループホーム安心住宅便りを配布している。・また、玄関の正面と介護ステーションの前に掲示し何時でも職員が確認し理解出来るようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	・地域の人達とは、気軽に声を掛けあったり、季節の野菜や果物をいただいたり、立ち寄っていただいている。・子供達も休みの日には、気軽に遊びに訪れている。・祭りに出掛けたり、ホームのクリスマス会に招待したり、老人クラブの方達が草取りに来てくれたり、冬期間にはホーム前の除雪をしてくれたりと交流を図っている。・普及活動までは至っていないと思われるが、ホーム便りを活用し地域に周知している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・全職員が自己評価を行いサービス向上に努めている。 ・外部評価結果をミーティングで話し合い質の向上に努めている。		
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果を報告し質問、助言を受け、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議、集団指導以外にも、直面している課題についてその都度相談し、助言を受け課題解決に取り組んでいる。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の1人の方がすでに利用されており、担当者や協力員との面識もあることから権利擁護については理解されていると思われる。必要性のあると思われる方には、その人を取り巻く関係者と検討し対応を図っていきたいと考えている。		
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	資料を用いてホーム内研修を行い、日々の取り組みに活かしている。特に言葉の暴力とならないよう、親しき仲にも礼儀ありで、入居者の皆様に敬う気持ちを大切に、言葉遣いには細心の注意を払っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、重要事項説明書にて説明を行い理解・納得の上で契約を交わしている。不安・疑問点を伺い、出来る事と出来ないこと等を説明し理解を図っている。		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者から苦情が出た際、管理者・職員で速やかに対応を図っている。また、苦情処理委員会を設置し対応を図っている。		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りにて職員の移動や生活ぶりについて写真を添えて報告している。また、健康状態については、その都度または受診時に変化が生じた場合に報告している。金銭管理については、毎月収支決算を行い送付している。		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理委員会を設置し何時でも対応出来るよう入居時に説明している。		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日常の会話の中で意見を聞いて反映させている。		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ホーム内での職員の配置が困難な場合には、本部と連携を図り職員の確保に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃から顔馴染みとなる機会を設け、移動等の際にはスムーズに馴染めるよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内での勉強会、本部での研修会、外部の研修に参加し職員の育成に取り組んでいる。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内でグループホーム連絡協議会をもうけ3ヶ月に1回の交流会を開催し、施設見学を兼ねたり日頃の疑問点を話し合っている。解決できない問題点に関しては、西北五地域認知症高齢者グループホーム協会に打診し意見を聞いている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務日誌や面談、職員同士ではミーティング時に日頃のうっぷんを話し合える雰囲気作りを行い、ストレス解消の軽減に努めている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、月1回は必ず訪問し職員が向上心を持って働けるよう声掛けを行い勤務状況を把握している。また、資格取得の奨励をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に見学をしていただき、本人が困っている事、不安や求めていることに対して、話を聞く機会を多く作り、受け止めるように努めている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーを交え、家族の困っている事、求めていること等を聞く機会を設けている。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来てもらい雰囲気を味わってもらっている。また、1日も早く慣れ親しんでいただく為に、コミュニケーションを多くとり不安なく過せるよう心がけている。		
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	持っている力を発揮できるよう、その時々々の状態や状況、他入居者との関係を考慮しながら一緒に行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的にホーム便りに写真を同封し本人の日常生活の様子を見ていただき、喜びを一緒に味わっていただくよう努めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に日々の様子を伝えたり、ホーム外で有った時にも本人の状況を伝えたり、家族の様子を本人に伝えたり、家族との絆が途切れないよう努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院時等に馴染みの人と会話をされたり、馴染みの場所に家族と一緒に出掛けたりしている。その反面、今までの関係を途切れないようにする事で、現在の生活に慣れにくいという難点も見受けられる。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う入居者同士の関係を把握し、孤立しないよう席の組み合わせに努めている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	何時でも声を掛け相談に乗ったり、状況を確認し今まで築いて来た関係を大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一日の流れはあるものの、一人ひとりの思いを把握し自分本位で生活できるよう支援している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら情報収集に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活の中で、出来る事と出来ない事を見極め、出来る事を優先し、総合的に把握するよう努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで本人がより良く暮らす為の意見交換を行い、介護計画を作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じで見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	規定の3ヶ月に1回の見直しを行っている。また、本人の状態、状況変化に対しその都度話し合いを持ち、現状に即した計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人ファイルに記入し、情報を共有しながら支援している。何時でも全職員が確認できるようにしており、勤務開始前の確認を義務付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況に応じて家族と連携を図り通院等を行い、一人ひとりの満足度を高めるよう勤めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域住民や民生委員の協力を得られるよう働きかけている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応を図りたいと思っているが、現在のところ利用する方はいない。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護をりようしている入居者は居る。町の地域包括支援センターはグループホームと協働できる体制に無い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意見を取り入れ希望する医療機関や必要に応じての医療機関への受診を行なっている。受診結果については、家族、本人に伝え状態の共有を図れるように連絡を取っている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地元の総合病院や個人病院に認知症に詳しい医師が居る為、相談したりアドバイスを受けている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護師に何時でも相談し助言をもらえるようになっている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向け家族、担当医と連携を図り、情報交換を行いながら支援に結びつけている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者や家族、医療機関との話し合いを持ち対応を図っている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期には対応をしていない（協力施設に移行したり、協力病院への入院を依頼している）。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	アセスメントやケアプランを提供し、最小限のダメージで移行できるよう情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識調査（言葉遣い等）を行ったり、プライバシーの必要性を話し合ったり、入居者を尊重しながら接している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の好みを家族から情報を得て把握に努めている。また、一人ひとりに会った働きかけや説明を行い、自己決定が出来るよう働きかけている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の流れはあるものの、個々が自分のペースで過せるよう支援し、グループホームは家という事で、予定外に外出したり柔軟に対応を図っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在は、理容院が訪問し行っている為、馴染みの店に行く方はいないが、希望があれば対応を図っている。また、出掛ける時には、自分で選んだ服装で出掛け、衣類の乱れや汚れが見られた際には、さり気なくサポートしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好に出来る限り合わせたり、疾病に対して考慮しながら提供し、職員も一緒に同じものを食べている。食材の下ごしらえや味見をしていただいたり、食事前のお絞りだたみや食事後の後片付け、食器拭き等を持っている力を活かしながら一緒に行っている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコはホームとしては、禁止している。それ以外については、本人の好みの物を把握し提供している。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に記入し訴えの無い時、尿意が無い方に声がけにて誘導を行い、気持ち良く排泄が出来るよう職員間で話し合いを持って支援している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴に関しては、ホームの流れでやってしまっているが、1人ひとりの希望の温度で対応している。「湯っこいぢばんいい」と週3回の入浴を楽しみにされている。入浴が無い時は、足浴を行っている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	照明に配慮したり、眠れない方には職員との会話、飲み物で安心感を持っていただき気持ち良く眠れるよう支援を図っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性入居者には、主婦として培って来た食器拭き、お絞りだたみや食材の下ごしらえ、洗濯だたみ等を担って頂いている。男性入居者の方でも出来る、洗濯だたみやお絞りだたみを依頼している。又、自分が持てる力を出せる方には、その都度依頼している（ゴミ袋に名前を書いたり、塗り絵等）。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	被害妄想のある方が居る為、多額のお金を所持する事は控えているが、自分で管理できる範囲内の金額は所持したり使えるようにしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や体調を考慮し出来る限り外出の頻度を増やすようにしている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お盆やお正月に家族と一緒に過している方や、通院の帰りに家族と一緒に自宅に立ち寄ったりと出来る限りの支援をしている。また、普段行けない所へ他入居者と一緒に出掛けるように機会を見つけ支援を図っている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば何時でも対応を図っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友達が気軽に訪れやすい雰囲気を作り、居室でゆっくり談笑出来るように心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、何時でも誰でも出入り出来る様に鍵を掛けないケアに取り組んでいる。また、居室にも鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ベッドや居室、トイレにナースコールの代わりに鈴を下げ、利用者の所在の把握に努めている。また、居室に長く入られている方については、声掛けを行い様子確認に努めている。夜間は、定期巡回を行い様子確認を行っている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	1人ひとりによって必要を感じている方には、気をつけるよう声掛けをしながら、使用していただいている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の方には、滑り止めの靴下を履いて頂いたり、手に薬を乗せ飲み終わるまで見守りを行っている。また、ひやりはっとにて今後の予防策について話し合いを持っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急時対応のマニュアルを作成し連絡方法を念頭に入れている。町の看護師、本部のデイサービスの看護師から疾病について、応急手当について指導を受けている。各自が資格を取った際に応急手当や蘇生術の講習を受けている。	○	消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施したい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、運営推進会議にて地域の協力を依頼している。また、地域担当の駐在所にも協力を仰いでいる。	○	消防署の協力を得て消火器の使用等の訓練を行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者の皆様は、自分の持っている力を自分なりに発揮したいと考えているため、無理のない程度であれば問題ないが、それ以上の力を発揮しようとする場合については、家族にその旨説明し理解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の体調管理については、毎日のバイタルチェック、食欲、顔色等の把握に努め、異変が見られた際には、職員間で情報を共有し、必要に応じて協力病院に連絡を取り指示を仰いでいる。その結果を家族に連絡したり、記録として残している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、個人ファイル、薬の保管カゴに入れ、何時でも確認できるようにしている。また、服薬時には、1人ひとりに手渡し、飲み終えるまで確認している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、便秘について理解し、水分補給、食物繊維の摂取に心がけ、それでも駄目な時は、医師に相談し下剤を服薬していただいている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、自分で出来る方には歯磨きの声掛けを行ない、出来ない方には職員が洗浄を行なっている。本人には、口腔洗浄として口のすすぎとうがいをしていただき、口腔ケアに努めている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに応じた水分量、食事量、栄養バランスについて、チェック表に記載し概ね把握するよう努めている。また、季節の旬の物や嗜好を把握し取り入れるようにしている。疾病の服薬から食材に制限のある方については、医師の指示の下本人の理解をもって実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、早期発見に努めている。食事、食器拭き前には、ウエルパスを手に噴霧、拭いた食器にアルコールを噴霧し消毒を行っている。インフルエンザ予防接種については、家族の同意を得て対応を図っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	お絞りと、布巾等を毎食後に漂白剤に浸し乾燥させてから使用している。日々食材を点検し早めに使い切るよう心がけている。また、残った物に関しては、24時間を目安に処分している。		
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者と家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気にならめ、誰でも気軽に出入り出来るよう玄関に入居者の作品を飾ったり、置物を置いたり工夫を凝らしている。最近では、近所の方が裏庭の花や建物、玄関に置いてあるぬいぐるみの写真を撮りに訪れている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた、オブジェや外出した際の写真を展示したり、五感に働きかけるために食事支度の匂いや音、匂いの物を食べ味わっていただけるよう工夫をしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	殆どの方が、1日中食堂にて気の合う方とお喋りを楽しまれたり、テレビを観て過されている。廊下に置いてあるベンチで過される方も居る。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人ひとりが過しやすいように使い慣れた物を持参されている。中には、夫の位牌を持参されている方もいる。テレビの上に、家族や知人の写真を飾ったり、ぬいぐるみを飾ったりしている方も居る。明るい雰囲気になるよう工夫をしている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日差しがとても良く、夏場は特に温度調整が必要で窓を開けたり、換気扇をつけたり、カーテンを掛けたり、入居者の状況、好みに応じてこまめに対応している（風を嫌う人が居る為、窓を開ける際気配りが必要）。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりを設置している。ベッドは介護用で1人ひとりに合った高さで使っていただき、自立した生活が送れるようにしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	浴室にはのれんを下げ、トイレも分かるように表示したり、居室には、名札を下げたり、自分の顔写真を貼り自分の力で分かるようにしている。混乱が生じた場合には、職員一同で話し合いを持って対処している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居間や廊下は、毎日ラジオ体操や歩行訓練に使用している。また、裏庭にはホーム自慢の農園があり、出来る方は職員と一緒に活動できるようにしている。田園風景に囲まれている為、自然を眼と肌で感じ穏やかに過ごしていただいている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・今年度の理念は、BS法を用いて入居者の皆様を主体として考え、職員全員が日々の中で取り組み、支援を図っていけるよう作り上げた（入居者を主体として、それをサポートしていく姿勢がほぼ全職員に浸透している）。
- ・クリスマス会には、日頃お世話になっている地域の方達や家族を招待し楽しい一時を過ごしている。
- ・職員同士、何時でも話し合い協力しながらチームワーク良く取り組んでいる。また、“仕事は楽しく”をモットーに笑い声の絶えない明るいホーム作りを心がけている。